

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書
研究分担者 北岡裕章（高知大学教育研究部医療学系臨床医学部門・教授）

特発性心筋症に関する調査研究

研究要旨

本研究班は、1974年に旧厚生省特定疾患調査研究班として、特発性心筋症の疫学・病因・診断・治療を明らかにすべく設立され、その後約40年間継続して本領域での進歩・発展に大きく貢献してきた。本研究は、心筋症の実態を把握し、日本循環器学会、日本心不全学会と連携し診断基準や診療ガイドラインの確立をめざし、研究成果を広く診療へ普及し、医療水準の向上を図ることを目的とした。研究班による全国規模での心筋症のレジストリー、特定疾患登録システムの確立を推進準備し、心筋症をターゲットとした登録観察研究であるサブグループ研究を開始し、登録をすすめた。また、研究成果の社会への還元として、ホームページ公開や市民公開講座を行った。

A. 研究目的

心筋症患者に対する診療水準の均一化および向上を目的に、心筋症ガイドライン（含英語版）の策定を施行し、心筋症診療の向上に寄与する。

B. 研究方法

心筋症診療ガイドライン策定班を構成し、現行ガイドラインの改訂作業を行い、心筋症診療ガイドラインを策定（含英語版）し、学会や講演会を通じ、啓蒙をはかる。

（倫理面への配慮）

特になし

C. 研究結果

2019年3月に心筋症診療ガイドライン（2018年改訂版）を公表した。そして2021年8月に同英語版を発刊した（Cir J 2021;85:1590-1689）。2021年に発刊した英語版は、Scopus上23の文献に引用されている（2023年3月末）。

D. 考察

心筋症の定義、分類は現在国で、様々である。心筋症診療ガイドライン(2018年改定版)は、我が国の診療実態に応じた心筋症分類、最近の知見を元にした検査、治療方針を明示した内容となっており、我が国における心筋症診療の質的向上に貢献したと

考える。

E. 結論

新しいガイドラインを策定し、心筋症の診療レベル向上に貢献することが出来た。

F. 健康危険情報

特になし

G. 学会発表

1. 論文発表

Kitaoka H, Tsutsui H, Kubo T, et al. JCS/JH FS 2018 Guideline on the Diagnosis and Treatment of Cardiomyopathies. Cir J 2021;85:1590-1689.

2. 学会発表（発表誌面巻号・ページ・発行年等も記入）

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし